

東京国際空港（羽田空港）を離陸した直後、航空機内から見下ろした D 滑走路です。眼下には滑走路南西端の「23」という巨大な数字がはっきり見えます。滑走路番号は単なる整理番号ではなく、航空機が滑走路を進む磁方位を 10 度単位で表したものです。「23」はおおむね 230 度、つまり南西方向を向いて使用する滑走路という意味です。同じ一本を反対向きに使えば方位は約 50 度となるため、反対側には「05」と表示されます。

羽田には A・B・C・D の 4 本の滑走路があり、A は 16R/34L、B は 04/22、C は 16L/34R、D は 05/23 です。一本の滑走路に二つの番号があるのは、風向などに応じて両方向から使用するためです。また A と C はほぼ平行なので、同じ 16・34 という数字に、進行方向から見た左の L (Left)、右の R (Right) を加えて区別します。羽田では風向や時間帯、飛行経路に応じて 4 本を組み合わせ運用しています。

写真の D 滑走路は 2010 年に供用を開始した第 4 滑走路で、延長 2,500 メートル、幅 60 メートルです。羽田の発着容量を大幅に増やす目的で沖合に建設され、北風時には 05 からの離陸、南風時には 23 への着陸などを担う重要な滑走路です。2,500 メートル級は大型機が就航可能な施設規模で、旅客ジェット機はもちろん、ボーイング 777 や 787 などの大型機も運用できます。ただし、必要滑走距離は機種だけでなく重量や気温などで変わるため、超長距離便など重量の大きい離陸では、より長い C 滑走路などが選ばれる場合があります。

(2026 年 7 月上旬／東京国際空港)

